



愛犬と愛猫の“真の健康”を育む

# デイリーケアブック

ペットのなまえ

---

誕生日：

年

月

日

性別：



犬や猫との暮らしは、私たちの毎日をととても豊かにしてくれます。  
彼らの仕草や表情に笑顔になったり、  
励まされたり、ときには慰められたりすることもあるでしょう。  
そう、彼らは大切な家族の一員です。

そんな彼らが本当に犬や猫らしく、  
元気に暮らせる毎日とはどのようなものでしょう。  
このデイリーケアブックは、ペットオーナーの皆さんが、  
彼らが真に健康でいるために必要なことを知り、  
さまざまな情報を記録していただける手帳です。  
皆さんの愛犬・愛猫がより健やかな毎日を過ごせるよう、  
ぜひ日頃のケアにご活用ください。



ROYAL CANIN®

# CONTENTS

- 06 愛犬と愛猫の“真の健康”のために。  
大切な5つのポイント
- 18 デイリーケアのための基礎知識：適正体重と病気  
適正な体重を保つことがさまざまな病気を予防します
- 25 デイリーケアのための基礎知識：トイレの観察  
トイレの観察から多くのことがわかります
- 28 デイリーケアのための基礎知識：目や耳、被毛などの観察  
目や耳、口、皮膚や被毛など見て触ってわかることもたくさんあります
- 33 デイリーケアのための基礎知識：専門家のアドバイスを  
専門家から正しいアドバイスを受けましょう
- 36 お役立ち情報リンク集
- 38 デイリーケアの記録
- 44 通院の記録
- 48 ワクチンの記録
- 50 健康診断の記録
- 54 愛犬・愛猫のプロフィール
- 55 ロイヤルカナン理念





## 愛犬と愛猫の“真の健康”のために。 大切な5つのポイント

犬と猫にとっての“真の健康”とはなんでしょう？  
病气や怪我で通院していないこと？  
具合が悪いところが一つもないこと？

ロイヤルカナンが考える“真の健康”とは、  
犬・猫という動物が本来持っている美しさが  
十分に引き出されていること。  
彼らが瞳を輝かせ、毛づやのよい体でしなやかに、  
軽やかに活動できる状態のことです。

愛犬と愛猫の“真の健康”を育み、  
彼らの暮らしをより健やかで、より豊かなものに  
するための5つのポイントをご紹介します。

## ポイント 1

# 違いを知る

### 犬と猫は人とはまったく異なる動物

犬と猫、人はまったく異なる動物。あらゆる面で違いがあります。

たとえば、食。犬は人との暮らしの中で肉食から雑食に変化しました。品種によって体格差が大きいため、雑食とはいつでも身体のサイズや特性によって個々に食事で配慮すべきポイントも変わります。猫は今でも完全な肉食動物です。そして人は雑食で、食のスタイルは人それぞれ。



暮らし方はどうでしょう。犬は品種にもよりますが、散歩による運動が必要。それは犬の暮らしが本来、集団で獲物を追いかけてながら長距離を「移動する」生活だったから。そしてもちろん、外に出ることがストレス解消や老化防止にもつながるからです。猫は犬とは異なり単独で狩りをするハンターです。狩りのスタイルは「待ち伏せ」。普段、狭く暗いところや高いところでマイペースに過ごすことが好きなのも、長い時間眠っているのも、単独で狩りをする習性が関係しています。

では、人は？ ライフスタイルはそれぞれ。でも、散歩が必須なわけでも、狩りの準備が必要なわけでもありません。

つまり、犬と猫、人には、それぞれに合った食事や暮らしが必要。ペットオーナーに求められることは、まず、犬、猫という動物の特性、人との違いをよく知ること。彼らの多様性をしっかりと理解することです。

## ポイント 2

# 栄養ニーズを知る

## 最適な栄養バランスは個々に違う

軽やかに走る小型犬、どっしりと重厚に構えた大型犬。大きく物静かな猫、小さくて身軽な猫。同じ犬、猫でも、品種によってサイズやタイプが大きく変わります。

たとえば体重約2kgのチワワと、体重約70kgのグレートデーンは、食べる量はもちろん、最適な栄養バランスも異なる

ります。猫では、たとえばアクティブでいたずら好きな中型のアビシニアンと、大きいけれど温和で物静かなメインクーンでは、やはり活動量、最適な栄養バランスが変わってきます。

さらに、年齢によっても栄養ニーズは変化。また、妊娠・授乳期や病気のときなど、栄養に特別な配慮が必要な場合もあります。

大切なことは、犬と猫には、その時々で一頭一頭異なる栄養ニーズがあるということをペットオーナーが理解すること。そして最適なフードを適量与えることです。もちろん、おやつも栄養バランスをみて適量に調整しましょう。



## ポイント3

# よく観察する

### その小さな変化は 体調不良のサインかも

犬や猫が言葉を話せたらいいのに。そう思うことがあるかもしれません。彼らが体調を崩したときはとくに。

犬や猫は不調を訴えることができません。とりわけ猫は単独生活をしてきた動物なので、不調を表すと外敵に襲われやすくなるために、むしろ不調を隠す習性を持っています。

ペットオーナーは普段から、愛犬・愛猫にいつもと違った様子がないかをよく観察することが大切。散歩や遊びを嫌がるようになった、食事が減ったなど、比較的わかりやすい変化もあれば、触ってみなければわからないような変化もあります。食事や飲み水の量、回数、排泄の様子を観察すること、そして、日頃からブラッシングやマッサージ、抱っこの際などに、よく身体を触って確認することも重要です。小さな変化は不調のサインかもしれません。いつもと違う様子があれば、すぐに専門家に相談を。





## ポイント 4

# 定期的に 健康診断を受診する

### 老化スピードは人の4倍以上

犬や猫は駆け足で歳をとっていきます。そのはやさは人の4倍以上。人にはまだ子犬・子猫のように見える1歳でも、犬や猫の歳ではすでに成犬・成猫なのです。中・高齢期に差しかかるのは、サイズによって異なりますが犬ではおよそ5~8歳、



猫では7歳。彼らの時間は人の時間と比べると、ずっとはやく進むのです。

定期的な健康診断の受診は、愛犬・愛猫の健やかな毎日のためにペットオーナーができることの一つです。約4倍で進む犬・猫の時間を考えると、年1回ではなく、できれば年2回以上の、しっかりとした健康診断を。





## ポイント5

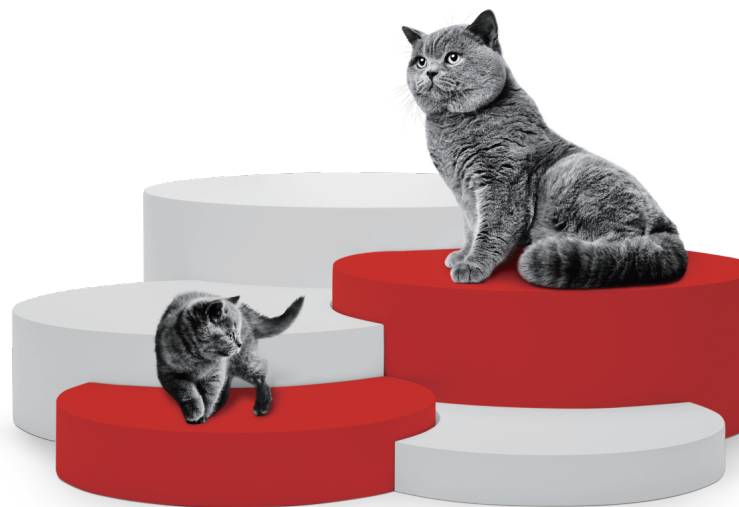
# 専門家の正しい アドバイスを受ける

### 日頃から相談できる関係づくりが大事

散歩の仕方はこれでいいのかな？ 食事の与え方は？ 爪切りはこれでいい？ 愛犬・愛猫と暮らしていると、多くのわからないことに遭遇します。

ペットオーナーにとって心強い味方となるのが、正しい知識を持った、さまざまな犬と猫の専門家たち。小さなことでも気軽に相談できるよう、獣医師や愛玩動物看護師を含む動物病院スタッフ、ブリーダー、ペット専門店の店員、トリマーなどの専門家と普段から関係を築いておくことが大切です。

専門家とコミュニケーションを取り、サポートを得られやすい環境をつくること。 ペットオーナーが正しい知識をつけること。 それが愛犬・愛猫の健やかな毎日を育むことにつながります。



日頃から体重を測定し、適正なフード給与量を

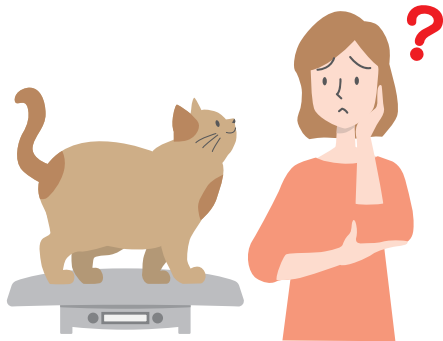
**適正体重を保つことが**

**さまざまな病気を予防します**

【 体型を観察することで  
適正体重を知りましょう 】

「あなたの愛犬や愛猫は、適正体重ですか?」

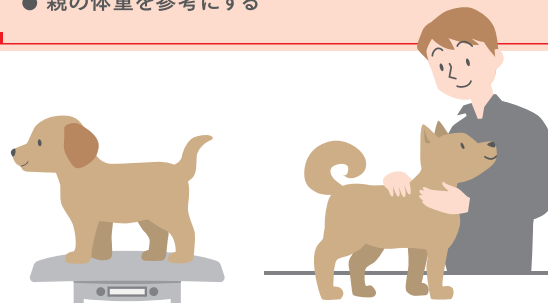
そう聞かれたら、どう答えるでしょうか。「見た目、太っていないからたぶん適正」「元気で健康だから適正」と答えるかもしれませんし、「そもそも適正体重って何?」と疑問を持つかもしれません。



適正体重を知る方法はいくつかあり、たとえば、成犬・成猫(1歳)になったときの体重を参考にする方法、体型をチェックすることで適正かどうかを知る方法などがあります。成犬・成猫の体重を参考にするのは、犬や猫は成長の過程で多くのエネルギーを必要としますが、成長が止まった頃には極端に肥満になることが少ないと考えられているからです。さらに親の体重を参考にするという方法もあります。

### 適正体重を知る方法

- 成犬・成猫(1歳)になったときの体重を参考にする
- 体型をチェックする
- 親の体重を参考にする



実際に犬や猫の身体に触れたり、観察することで適正な「体型」を確かめる方法もあります。「ボディコンディションスコア(BCS)<sup>※</sup>」と呼ばれており、品種にかかわらず個々の状態を知ることができます。

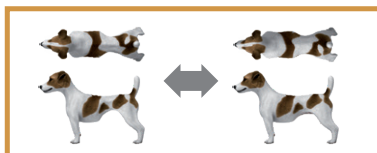
※実際のスコアは次のページ参照

ボディコンディションスコアには、犬や猫を上から見たとき、横から見たときのフォルムが描かれているので、見た目だけでも比較的わかりやすい指標です。また、実際に触れることでコンディションを確認できるため、長毛など見た目ではわかりにくい場合も肥満度をチェックできます。ちなみに、犬も猫も、BCS4~5が適正な体型と言われています。スコアが6の場合は10%体重過多、スコア7は20%、

スコア8は30%、スコア9は40%の体重過多と考えています。スコアが6以上の場合は、減量用の食事療法食に変えたり、与え方を工夫する必要があるかもしれません。かかりつけの動物病院に気軽に相談してみましょう。

BCS	理想体重との差
6	10%体重過多
7	20%体重過多
8	30%体重過多
9	40%体重過多

### ボディコンディションスコア(BCS)



**見る**  
遠くからでも肋骨などの骨がはっきりと見える

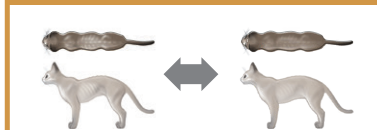
**見る**  
腰のくびれが明らかで、骨盤周囲が骨ばって見える

**さわる**  
さわられる体脂肪が全くない

**さわる**  
さわられる体脂肪がほとんどない

やせている

BCS 1 BCS 2 BCS 3



**見る**  
短毛種では肋骨などの骨がはっきりと見える

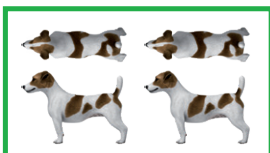
**見る**  
短毛種では肋骨が容易に見える

**さわる**  
肋骨は余分な脂肪に覆われることなく、容易にさわられる

**見る**  
腰のくびれが著しい腹の巻き上がりが目立つ

**見る**  
腰のくびれが明らか

**さわる**  
腹部にごくわずかな脂肪がある



**見る**  
腰のくびれが明らか

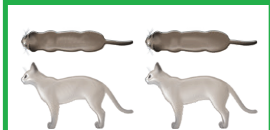
**見る**  
腰のくびれが明らかで、骨盤周囲が骨ばって見える

**さわる**  
肋骨は余分な脂肪に覆われることなく、容易にさわられる

**さわる**  
肋骨は余分な脂肪に覆われることなく、容易にさわられる

適正

BCS 4 BCS 5



**見る**  
腰のくびれが明らか

**見る**  
腰のくびれが明らかで、骨盤周囲が骨ばって見える

**さわる**  
肋骨は見えにくい、容易にさわられる

**見る**  
腰のくびれが著しい腹の巻き上がりが目立つ

**見る**  
腰のくびれが明らか

**さわる**  
腹部にごくわずかな脂肪がある



**見る**  
腰のくびれはあるが、あまりはっきりしていない

**見る**  
腰のくびれはあるが、あまりはっきりしていない

**さわる**  
肋骨はわずかに余分な脂肪に覆われているが、さわられる

**さわる**  
肋骨はわずかに余分な脂肪に覆われているが、さわられる

太りすぎ

BCS 6



**見る**  
腰のくびれがあまりはっきりしていない

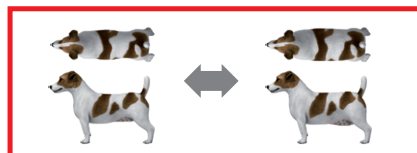
**見る**  
腰のくびれがあまりはっきりしていない

**さわる**  
肋骨は見えにくい、容易にさわられる

**見る**  
腰のくびれが著しい腹の巻き上がりが目立つ

**見る**  
腰のくびれが明らか

**さわる**  
腹部にごくわずかな脂肪がある



**見る**  
腰のくびれはほとんどまたは全くない

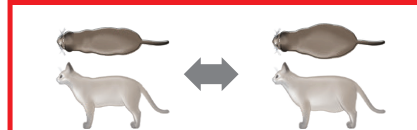
**見る**  
腰のくびれはほとんどまたは全くない

**さわる**  
肋骨はかなりの脂肪に覆われるが、なんとかさわられる

**さわる**  
肋骨はかなりの脂肪に覆われるが、なんとかさわられる

太っている

BCS 7 BCS 8 BCS 9



**見る**  
腰のくびれはわずかにある

**見る**  
腰のくびれはわずかにある

**さわる**  
肋骨は脂肪に覆われ、さわることが困難

**見る**  
腰のくびれが著しい腹の巻き上がりが目立つ

**見る**  
腰のくびれが明らか

**さわる**  
肋骨は厚い脂肪に覆われ、さわれない

## 肥満は生活の質を 低下させることにつながります

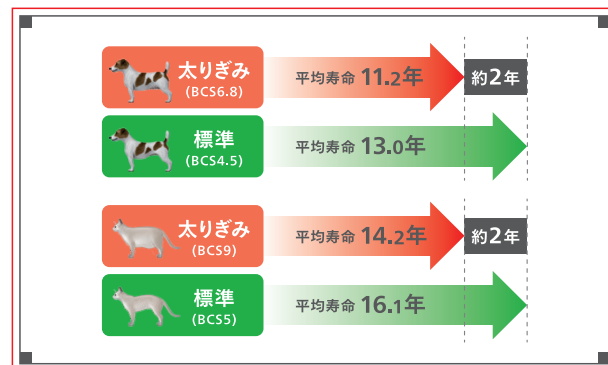
肥満は犬や猫の関節炎や糖尿病などの病気を引き起こしやすくなります。また、病気にはならなくても、たとえば、以前は散歩が大好きだった愛犬が、体重が増加したことで疲れやすくなり、外出を嫌がったり、以前は高いところに飛び乗っていた愛猫が飛び乗れなくなったりすることもあります。普段できていたことができなくなると、ストレスにつながり、彼らのQOL（生活の質）が下がってしまいます。体重増加は、彼らの暮らしにさまざまな影響を及ぼすのです。

## 数ヶ月～2年半も 寿命を縮めるという研究結果も

おいしそうに食事をしている犬や猫を見ていると、ついついもう少しあげたいという気持ちになりがち。でも、その「もう少し」の積み重ねが体重を増やし、それがさまざまな病気を引き起こすことにつながります。



家庭で飼育されている犬 12 品種で、適正体重の犬と過体重の犬の寿命を比較したある研究では、すべての犬種で過体重の犬の方が約数ヵ月～2年半も平均寿命が短かったことが報告されています。適正体重でないことが寿命を短くすることにつながる。これは犬だけでなく、猫にも同じように言えること。愛犬・愛猫の体重を適正に保つことは、ペットオーナーとしての大切な役割です。



出典：犬／Kealy RD, et al. 2002 猫／Teng KT, et al. 2018

## ペットフードのパッケージに 記載されている給与量は多い？

ペットフードのパッケージには給与表が記載されています。実は、この給与表に書かれている量は、犬や猫にとって適切なフードの量を見つけるための最初の目安。「この量から始めてみて、適した量を見つけてください」という量なのです。

フードの適正量は、それぞれの犬や猫が今のくらの体重で、どのような健康状態にあるかによって変化します。たとえば、肥満気味の犬に現在の体重をもとにパッケージの給与量通りに与え続けると、ますます体重が増加することになります。そのため、まずは体重や体型を確認し、適正な体重かどうかを確認。適正でなければ、パッケージ通りの給与量を与えてはいけないうことになりすし、適正であればいったん目安量を与え、1〜2週間後の体重変化を見て給与量を調整するということを行います。パッケージに記載されているフードの給与量はあくまで目安。わかりにくい場合は動物病院でアドバイスを受けましょう。

### 給与量の例

犬種：プードル  
体重：6kg  
運動量：多い



### 1日の標準給与量目安

体重	運動しない		よく運動する	
	(g)	カップ	(g)	カップ
2 kg	39	4/8	45	5/8
6 kg	89	1+1/8	104	1+3/8
10 kg	131	1+6/8	152	2
12 kg	150	2	174	2+2/8

← 給与量

## 毎日の確認とこまめな記録を

## トイレの観察から

## 多くのことがわかります

色や匂い、量、排泄の様子を  
よく観察しましょう

ペットオーナーにとって、トイレに関わる話題は尽きないかもしれません。「犬が喜ぶとすぐにおしっこをしてしまう」というようなクスクスと笑えるようなことから、「トイレをなかなか覚えず、いつも別の場所でしてしまう」という頭を抱えてしまうようなことまであるでしょう。

そうした日々のトイレの困りごとで頭を悩ませることは多いかもしれませんが、健康状態を確認するという視点でトイレの観察をすることは多くないのではないのでしょうか。トイレや排泄物の観察は、彼らの身体の不調を見つけるための大変重要な項目なのです。



たとえば、いつもより頻繁にトイレに行くようになった、トイレの時間がいつもより長い、おしっこの匂いがいつもよりきつい、量が少ない、など、思い当たることはないでしょうか。これらは、もしかしたら、尿路結石などの「下部尿路疾患」の兆候かもしれません。尿路結石は、膀胱や尿道に砂や石のような物質（結石）がたまってしまう病気。結石によっておしっこが出にくくなったり、詰まってしまうたりすることもあります。おしっこが出なくなると命に関わります。排泄時に痛そうに鳴く、おしっこに血が混じっている、おしっこが出ないなどの症状は緊急を要します。すぐに動物病院を受診しましょう。

### 「下部尿路疾患」が疑われるサイン

- いつもより頻繁にトイレに行くようになった
- トイレの時間がいつもより長い
- おしっこの匂いがいつもよりきつい
- おしっこの量が少ない・出ない
- 排泄時に痛そうに鳴く
- おしっこに血が混じっている



また、おしっこの量が増えた、というときも注意が必要。「糖尿病」や「腎臓病」の兆候でもあるからです。この場合、下痢をしていたり、水を飲む量も増える傾向にあるので、併せて観察が必要です。トイレからわかる不調はほかにもありますので、いつもと違う様子があれば、かかりつけの動物病院に相談しましょう。

### 気持ちよくトイレができる 環境を整えましょう

愛犬・愛猫が気持ちよくトイレができる環境を整えることも、ペットオーナーの重要な役割です。

散歩の際にトイレをする犬は、散歩の時間がペットオーナーの都合で頻繁に変わると、我慢をしまい、思うように排泄できなくなることもあります。また、家の中でペットシートにする場合でもトイレの場所が落ち着かない場所にあったり、大きな物音がする場所にあると粗相をすることも。猫の場合は、トイレの砂の種類が気に入らない、トイレのサイズが小さい、トイレの掃除がされていないなどの理由で排泄を我慢したり、ほかの場所でしてしまうこともあります。

動物が生きていく上で、排泄はとても重要。ペットオーナーは愛犬・愛猫が気持ちよくトイレができるよう、環境を整えてあげることが大切。



スキンシップでじっくり観察を

目や耳、口、皮膚や被毛など見て  
触ってわかることもたくさんあります

毎日のスキンシップは  
観察も兼ねましょう

犬の大きくてつぶらな瞳、猫のミステリアスな瞳を見つめるとき、柔らかな被毛を撫でるとき、しっかりと抱きしめるときは、ペットオーナーにとって、彼らへの愛おしさが増す時間。そんなスキンシップの時間を使って、目や耳、口、皮膚や被毛などの状態をチェックしましょう。

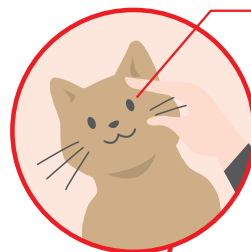
犬はコミュニケーションを必要とする動物。ペットオーナーとのスキンシップはとても重要なので、その時間を観察時間に当てられることは一石二鳥です。猫は、犬のようなコミュニケーションは求めませんが、品種や性格によって、スキンシップを好む猫もたくさんいます。近づいてきたとき、膝に乗ってきたときなどに、観察を行いましょう。ちなみに、犬も猫も、無理矢理なスキンシップや強引な観察はNG。嫌がることを無理にしないよう、注意しましょう。



各部位で観察する  
ポイントを知りましょう

目を観察するときは、目やにが多くないか、涙が多くないか、目を開けづらそうにしているか、また、目が濁っていないか、目が腫れていないか、痒がっていないかなどをチェック。目の異常は、結膜炎などの目そのものの病気もあれば、アレルギーの影響や、糖尿病の兆候であることもあります。視線が合わないなどの場合は脳の病気が原因している場合もあります。

CHECK!

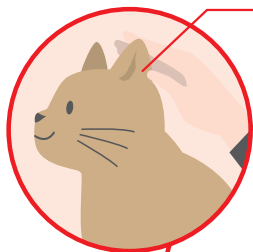


目のチェックポイント

- 目やにが多くないか
- 涙が多くないか
- 目を開けづらそうにしているか
- 目が濁っていないか
- 目が腫れていないか
- 痒がっていないか



CHECK!



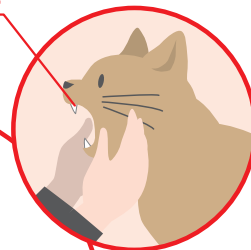
### 耳のチェックポイント

- 耳垢の量
- 耳垢の色
- 耳をしきりに搔いていないか
- 匂いがきつくないか
- 耳の皮膚に赤みや被毛の抜けがないか

耳の観察では、見た目と匂いが重要。耳垢の量や色、耳の様子、匂いを確認しましょう。耳の異常でよく聞かれるのは外耳炎です。見た目の変化はあまり大きくありませんが、痒みや痛みのせいで耳をしきりに搔いたり、首を振るなどのしぐさを見せます。悪化すると匂いがきつくなると言われるので、匂いもチェックしましょう。また、耳も、アレルギーの影響が出るところです。皮膚の赤みや被毛が抜けているなどの変化がないかも観察しましょう。

口は、口の中、歯、匂い、呼吸を中心に確認します。歯が汚れていないか、口の周りを気にしていないか、匂いがきつくないかなどをチェック。呼吸が荒くないかも確認しましょう。実は、犬が動物病院を受診する理由で最も多いのは歯石と歯周病です。歯周病が進むと口臭がきつくなり、歯が抜けて食べることが困難になることもあります。犬のペットオーナーは毎日のデンタルケアがとても重要です。猫にもデンタルケアは必要ですが、ほとんどの猫は口の中を触られることを嫌がります。最近は猫用のデンタルケアフードなども売られていますので、チェックしてみるのもいいでしょう。

CHECK!

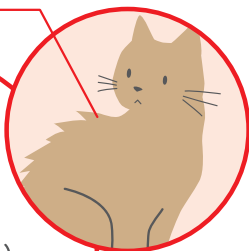


### 口のチェックポイント

- 歯が汚れていないか
- 口の周りを気にしていないか
- 匂いがきつくないか
- 呼吸が荒くないか

被毛の観察は、毛づや、脱毛の量などが中心。皮膚もチェックしましょう。犬や猫は身体に不調が現れると、被毛に影響が出がち。被毛の維持にはタンパク質やミネラルを必要とするので、それらの栄養素が不足しただけでもつやが失われていきます。また、皮膚が乾燥してフケが多くなったり、アレルギーで赤みや湿疹が出たりすることも。いつもの毛づやではない、最近被毛がゴワゴワしている、など気になることがあれば、専門家に相談しましょう。

CHECK!



### 被毛のチェックポイント

- 皮膚が乾燥してフケが多い
- 赤みや湿疹が出ている
- いつもの毛づやではない
- 被毛がゴワゴワしている

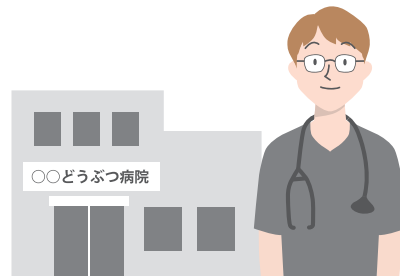
いずれの部位でも、毎日の観察で気になることがあれば、こまめにメモを残し、写真を撮影しておきましょう。後に動物病院にかかるときに、とても参考になります。

気軽に相談できる関係づくりを

専門家から正しいアドバイスを  
受けましょう

正しい情報・アドバイスを  
受けることが大切です

わからないことがあってもインターネットですぐに調べることができる時代です。犬や猫の毎日のお世話や健康についても、ネット上にはたくさん情報があります。しかし、それらがすべて正しい情報とは限りませんし、今、あなたの愛犬・愛猫にふさわしい情報であるかどうかはわかりません。重要なことは、動物病院やペット専門店などの信頼できる専門家との関係を普段からつづけておき、そこから、正しい知識やアドバイスを受けることです。病気になったときだけでなく、気になることがあるときにすぐに相談できるようにしておきましょう。





## 動物病院では 普段の観察が役に立ちます

愛犬や愛猫に気になることがあっても、それを病院で上手に伝えることは難しいもの。そういうとき、普段の観察メモ、写真や動画がとても役に立ちます。獣医師にそのまま見せれば、適切なアドバイスが受けられます。なお、獣医師との会話の中で、わからない専門用語が出てきたら、質問してみましょう。毎日のケアをするのはペットオーナーの皆さん。薬や処置など、何をどうすればいいのかをしっかりと確認することが大切です。

愛犬や愛猫が動物病院を嫌がることのないように、子犬・子猫のときから頻繁に連れて行き、慣れさせておくことも重要。ペットオーナーだけでなく、愛犬・愛猫と獣医師の関係づくりも必要なのです。

## 通いやすく、相談しやすい 専門家を選びましょう

動物病院やペット専門店などの専門家を選ぶときは、まず通いやすい場所かどうかが重要です。気軽に足を運べる場所であれば、緊急事態のときはもちろん、普段少しでも気になることがあったときに相談に訪れることができます。犬の場合は散歩コースに組み込むなどの工夫をしてもいいでしょう。

普段から犬や猫をキャリーケースやケージに慣れさせておくことも必要です。いざ病院へ行くとき、ペットサロンに行くとき、ペットホテルに預けるときなどに、キャリーケースやケージにすぐに入ってくれないとなかなか外出することができません。とくに猫は動きが素早いので、嫌がると捕まえるのは至難の業です。普段の生活の場にキャリーケースを出しておき、キャリーケースに入ることは嫌なことではないという状況をつくっておくとよいでしょう。これは災害時に避難するときにも大変有効です。





愛犬・愛猫の真の健康のために、

ペットオーナーの皆さんが参考にして

いただける情報がまだまだあります。

ぜひチェックしてみてください。

## HNLP Health Nutrition Learning Program ヘルスニュートリションラーニングプログラム



<https://hnlp-s.jp/>

ロイヤルカナンでは、ペットオーナーの皆さんに、愛犬・愛猫の健康管理について幅広く学んでいただけるよう「ヘルスニュートリションラーニングプログラム」を設けています。病気や年齢のこと、サイズの違い、ライフスタイル、栄養について、フードの選び方など、充実したコンテンツを提供しています。ぜひご登録の上、ご利用ください。

## ロイヤルカナン公式 SNS



YouTube

<https://www.youtube.com/@ROYALCANINOfficial>



Twitter

<https://twitter.com/royalcaninj>



Facebook

<https://www.facebook.com/DogAndCatFirst>

ペットオーナーの皆さんに参考にしていただけるさまざまな情報を定期的にSNSで配信しています。日頃のケアのコツや病気についての知識、また、犬と猫の習性などのアカデミックな記事まで、楽しく、興味深く学べる情報をお届けしています。

## マイロイヤルカナン

<https://shop.royalcanin.jp/>

ロイヤルカナンの公式通販サイトです。公式通販サイトだからこのさめ細やかな製品ラインナップ。愛犬・愛猫にぴったりのフードがきっと見つかります。



## ロイヤルカナン コーポレートサイト

<https://royalcanin.jp/>

私たちロイヤルカナンの理念や取り組みについてご紹介しています。



## キャット・フレンドリー・クリニック 取得病院

<https://www.jsfm-catfriendly.com/cfc/hospital.html>

「キャットフレンドリークリニック」は、世界的に普及している猫にやさしい動物病院の国際基準規格です。猫専任従事者を設け、より猫の専門性の高い知識と質の高い猫医療を提供できる、猫にやさしい動物病院が認定を受けることができます。サイトでは、認定を取得している病院を地域ごとに確認できます。



## 一般社団法人 Team HOPE

<http://teamhope-f.jp/>

Team HOPEは、ペットにやさしい社会の実現を目指し、全国の獣医師や愛玩動物看護師が集い、協力して活動している団体です。健康診断の普及や、動物病院に気軽に相談できる仕組みの整備などを行っています。



デイリーケアブックは、以下のサイトでダウンロードすることもできます。

記録ページのみダウンロードも可能です。

<https://royalcanin.jp/nutrition/magnificenthealth>





# デイリーケアの記録



日頃から、愛犬・愛猫を観察し、様子をメモする習慣をつけましょう。この表は、気になるところに✓マークを入れるだけの簡単なもの。シンプルで、時間がかからないので、気軽に記録できます。体重を量ったら数字を入れておくのもいいでしょう。



## 一般社団法人 Team HOPE



ペットの健康診断を推進する獣医師団体

このデイリーケアの記録は、Team HOPEのウェルネスチェック項目に基づいています。Team HOPEはペットの健康診断を推進する獣医師団体。全国の獣医師・動物病院が、ペットの予防医療と健康管理の普及・啓発を推進することを通して、「愛犬・愛猫の健康寿命を延伸し、ペットに優しい社会の実現を目指しています。

<https://www.teamhope-f.jp/>

チェック項目		/	/	/	/	/	/
生活全般	元気がない						
	息切れがあるなど、疲れやすい						
	歩き方や行動に変化がある						
	睡眠に変化がある						
	体重に変化がある	kg	kg	kg	kg	kg	kg
食事	食事量や飲水量に変化がある						
排泄	排泄物の色や臭い、量、固さ、排泄の回数などに変化がある						
体や部位	毛づやに変化や脱毛がある						
	体をかゆがったり、皮膚に異常がある						
	目に濁りや充血などの異常がある						
	くしゃみや咳、鼻水や鼻血がある						
	口臭がある、よだれが出る						
	歯が汚れている、歯石がある						
	耳の中が汚れている						

気づいたこと・メモ

デイリーケアの記録



# デイリーケアの記録



チェック項目		/	/	/	/	/	/
生活全般	元気がない						
	息切れがあるなど、疲れやすい						
	歩き方や行動に変化がある						
	睡眠に変化がある						
	体重に変化がある	kg	kg	kg	kg	kg	kg
食事	食事量や飲水量に変化がある						
排泄	排泄物の色や臭い、量、固さ、排泄の回数などに変化がある						
体や部位	毛づやに変化や脱毛がある						
	体をかゆがったり、皮膚に異常がある						
	目に濁りや充血などの異常がある						
	くしゃみや咳、鼻水や鼻血がある						
	口臭がある、よだれが出る						
	歯が汚れている、歯石がある						
	耳の中が汚れている						

気づいたこと・メモ

チェック項目		/	/	/	/	/	/
生活全般	元気がない						
	息切れがあるなど、疲れやすい						
	歩き方や行動に変化がある						
	睡眠に変化がある						
	体重に変化がある	kg	kg	kg	kg	kg	kg
食事	食事量や飲水量に変化がある						
排泄	排泄物の色や臭い、量、固さ、排泄の回数などに変化がある						
体や部位	毛づやに変化や脱毛がある						
	体をかゆがったり、皮膚に異常がある						
	目に濁りや充血などの異常がある						
	くしゃみや咳、鼻水や鼻血がある						
	口臭がある、よだれが出る						
	歯が汚れている、歯石がある						
	耳の中が汚れている						

気づいたこと・メモ



# デイリーケアの記録



チェック項目		/	/	/	/	/	/
生活全般	元気がない						
	息切れがあるなど、疲れやすい						
	歩き方や行動に変化がある						
	睡眠に変化がある						
	体重に変化がある	kg	kg	kg	kg	kg	kg
食事	食事量や飲水量に変化がある						
排泄	排泄物の色や臭い、量、固さ、排泄の回数などに変化がある						
体や部位	毛づやに変化や脱毛がある						
	体をかゆがったり、皮膚に異常がある						
	目に濁りや充血などの異常がある						
	くしゃみや咳、鼻水や鼻血がある						
	口臭がある、よだれが出る						
	歯が汚れている、歯石がある						
	耳の中が汚れている						

気づいたこと・メモ

チェック項目		/	/	/	/	/	/
生活全般	元気がない						
	息切れがあるなど、疲れやすい						
	歩き方や行動に変化がある						
	睡眠に変化がある						
	体重に変化がある	kg	kg	kg	kg	kg	kg
食事	食事量や飲水量に変化がある						
排泄	排泄物の色や臭い、量、固さ、排泄の回数などに変化がある						
体や部位	毛づやに変化や脱毛がある						
	体をかゆがったり、皮膚に異常がある						
	目に濁りや充血などの異常がある						
	くしゃみや咳、鼻水や鼻血がある						
	口臭がある、よだれが出る						
	歯が汚れている、歯石がある						
	耳の中が汚れている						

気づいたこと・メモ





# 通院の記録



「普段と違う様子がある」「でも、診察してもらった方がいいかわからない」。そんなときは、自身で判断せず、動物病院に相談しましょう。症状、獣医師から言われたこと、処方された薬、病院での様子などはこの表にメモしておきましょう。こうした病歴や処方薬などの記録は、かかりつけではない動物病院に行くことになった際など、獣医師に的確に情報を伝えるのに役立ち、その後のスムーズな診察にもつながります。また同様に、健康診断の記録、ワクチンの記録なども状態を把握するために大変重要です。

記入見本

日付	病院名	症状名	検査など	処方薬
12/3	ふれあいクリニック	右目に炎症	なし	点眼液 (オフロキサシン)
	メモ 朝起きたら右目を閉じにくくしていて、そのうち腫れてきたので病院へ			

日付	病院名	症状名	検査など	処方薬
	メモ			
	メモ			
	メモ			

日付	病院名	症状名	検査など	処方薬
	メモ			
	メモ			
	メモ			
	メモ			
	メモ			

通院の記録



# 通院の記録



日付	病院名	症状名	検査など	処方薬
メモ				
メモ				
メモ				
メモ				
メモ				
メモ				

日付	病院名	症状名	検査など	処方薬
メモ				
メモ				
メモ				
メモ				
メモ				
メモ				







## 基本情報を書き入れておきましょう。

性格、癖、好きな遊びなどを  
メモしておく、動物病院だけでなく、  
ペットサロンやホテルなどに預けるときの  
メモ情報としても使えます。



なまえ	犬 ・ 猫
誕生日	性別 オス ・ メス
品種 ・ 毛色	
避妊 ・ 去勢 未 ・ 済	マイクロチップ あり ・ なし
かかりつけの動物病院名	
特徴 ・ メモ	

## ロイヤルカナンの理念

# Dog & Cat First

すべては犬と猫のために

1968年、フランス南部カマルグ地方の獣医師ジャン カタリー博士が、治療を終えてもすぐに皮膚疾患を再発してしまうジャーマンシェパードのため、薬の代わりにフードを用いて、犬に本来備わった健康を最大限に引き出す特別な栄養バランスを見出しました。そのフードは絶大な効果を見せ、犬たちは回復し、再発することはありませんでした。この先見性のある取り組みから、ロイヤルカナンは誕生しました。以来、きめ細やかに調整された最適な栄養バランスにもとづいたフードを提供することによって、私たちロイヤルカナンは犬と猫に真の健康をもたらしているのです。



ロイヤルカナンは、科学と観察、犬と猫の専門家とパートナーシップに重んじ、個々の犬と猫のニーズに合うペットフードを開発・提供しています。個々の栄養ニーズをきめ細やかに満たすことで、一頭一頭の犬と猫に、目に見える、実感できる「真の健康」を提供することで、ペットにとってより良い世界の実現を目指しています。



ロイヤルカナンは、科学と観察、犬と猫の専門家とパートナーシップに重んじ、個々の犬と猫のニーズに合うペットフードを開発・提供しています。個々の栄養ニーズをきめ細やかに満たすことで、一頭一頭の犬と猫に、目に見える、実感できる「真の健康」を提供することで、ペットにとってより良い世界の実現を目指しています。

